

平和行動 in 広島 報告

日 程 : 2024年8月5日(月)～6日(火)
参 加 : 5名(内事務局1名)



1. 連合ピースウォークへの参加



ピースウォークでは、原爆ドームをはじめ、平和公園内にあるさまざまな慰霊碑などを回り、構成組織による説明を受けました。

その中の一つ「動員学徒慰霊塔」を紹介します。これは、戦時中、勤労奉仕に動員され、戦禍に倒れた学徒を慰霊する塔で、全国戦没学徒出身343校が冥福を祈り刻まれています。

また、慰霊塔にある女神像(←写真)は、3つの宗教を組み合わせた像で、顔は仏教、ベルト部分は神道の象徴である鏡、そして背中の翼はキリスト教を表しており、まさに宗教を超えた「平和」を形にした貴重な像となっています。

もう一つ、被爆したアサギリを紹介します。

爆心地から約1.3kmの場所に植えられており、激しい熱線と爆風を受け、幹の半分は焼けてえぐられ、中は空洞になるなどの被爆をしましたが、翌年にはその強い生命力で芽吹き、虚偽状態にあった被爆者たちに勇気を与えました。まさに、再生の象徴となり、現在では、全国に種子が配布され、二世が育っているということです。



2. 連合2024平和ヒロシマ集会への参加

集会では、芳野連合会長の主催者代表あいさつをかわきりに、各来賓からのあいさつをいただいた後、「被爆80年に向けて 被爆地広島の課題と役割」をテーマに、中国新聞社特別論説委員の宮崎智三氏の講演を聞きました。

その後、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之氏が被爆体験証言として、これまでの体験とご自身の活動についてお話をされました。

また、若者からのメッセージとして、「高校生平和大使」による活動報告と、決意表明が行われました。「平和大使」として、国連をはじめ、軍縮会議などに参加し、世界に向けて「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地の願い」を発信しているとのこと。しかし、こうした取り組みに反し、日本政府の対応が、「立場」を理由に、彼・彼女らの活動と相異なるということが課題だと、訴えていました。



3. 連合 原爆死没者慰霊式への参加

集会終了後、原爆ドームに移動し、連合の「原爆死没者慰霊式」に参加しました。

参加者一人ひとりが菊の花を手に、献花を行うとともに、各地方連合会が持ち寄った「各県の水」を、慰霊碑に献水するなど、原爆死没者に対し、哀悼の意を表しました。



4. 「平和記念式典」への参加

2日目は「平和記念式典」に参加しました。

多くの人たちが参加し、慎みながらも熱気に包まれていました。

5. 感想・コメント

来年で原爆から80年を迎えるということで、この活動が長期にわたり、多くの人たちの強い意志のもとで継続し続けていることに、深く感銘を受けました。継続することの意義と大切さ、重要さを改めて意識するとともに、さらなる運動の拡がりや次世代への継承に尽力していきたいと思えます。